

蔵王ジャンプ台の成り立ち

蔵王ジャンプ台は、昭和53年(1978年)の建設後、日本で初めてのインターライフを皮切りに、5回の冬季国体(現:国スポ)、国際蔵王ジャンプ大会や女子ワールドカップ等、数多くの大会を開催してきました。これまでも数回の改修を重ねてきましたが、平成26年(2014年)2月に開催された「やまがた樹氷国体」において、安定した競技運営を行う必要があったことから、平成25年度(2013年度)にFIS(国際スキー連盟)の最新ルールに合わせた大規模改修を行い、最新のクーリングシステムを備えた助走路に生まれ変わりました。平成27年(2015年)には、ジャンプ台の1年を通じた利用による「競技施設としての有効活用」と、「観光資源としての活用」を目指し、平成25年度(2013年度)改修時未着手の着地斜面(ランディングバーン)改修とサマーヒル化工事を実施しました。また、悪天候にも対応できるよう、照明設備を設置しました。工事完了によって、FISの最新基準に則した国内唯一のジャンプ台となり、平成28年度(2016年度)の雪解け後から現在まで、サマージャンプ台としても、多くのご利用をいただいています。

アリオンテック蔵王シャンツエ施設情報

ノーマルヒル

ヒルサイズ 102m
K点 95m

全長 300m

標高差 106m

傾斜長 220m

蔵王ジャンプ台の歴史

History of ZAO Schanze

1976

インターライフ日本大会準備委員会、蔵王を開催地に決定
次の5点が評価され志賀高原に競り勝つ
①気象条件・雪質 ②樹氷などの景観
③医療機関の整備 ④アクセス
⑤地元の受け入れ体制

1978 インターライフ用の40m級・本格的な70m級ジャンプ台完成

1979 第11回インターライフ日本大会開催

1984 第39回国民体育大会冬季大会スキー競技会(蔵王国体)開催

1989 市制100周年を記念し、FIS公認第1回国際蔵王ジャンプ大会開催(70m級ジャンプ競技)

1992 第47回国民体育大会冬季大会スキー競技会(べにばな国体)開催

1995 40m・70m級ジャンプ台の区別がなくなり、ノーマルヒルの表記になる

2004 第59回国民体育大会冬季大会スキー競技会(山形もがみ国体)開催

2006 FIS公認レディースコンチネンタルカップ初開催

2011/12

FISスキージャンプワールドカップレディース初開催

2014 第69回国民体育大会冬季大会スキー競技会(やまがた樹氷国体)開催

2016

サマーヒル開場式

2022

サマースキージャンプ山形蔵王大会初開催

2024 第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会(やまがた雪未来国スポ)開催

AlionTek ZAO Schanze

GUIDE

蔵王ジャンプ台施設案内

MAP



1 スタートゲート

Start Gate

選手がスタートする場所

大会の時はスタートの基準となる位置を決めて、基準より高くすると減点、逆に低くすると加点されるルールがあります。

2 アプローチ

Approach

ジャンプするための助走路

スタートゲートからカンテまでのことで、緩やかにカーブするクロソイド曲線を導入した最新型のジャンプ台となっています。最大斜度は35度です。

3 カンテ

Kante

ジャンプ台先端の踏切台

飛び出すときの角度は下向きに11度です。踏み切る瞬間に、時速80km後半まで加速します。

4 スタートハウス

Start House

ジャンプ前の選手の控え室

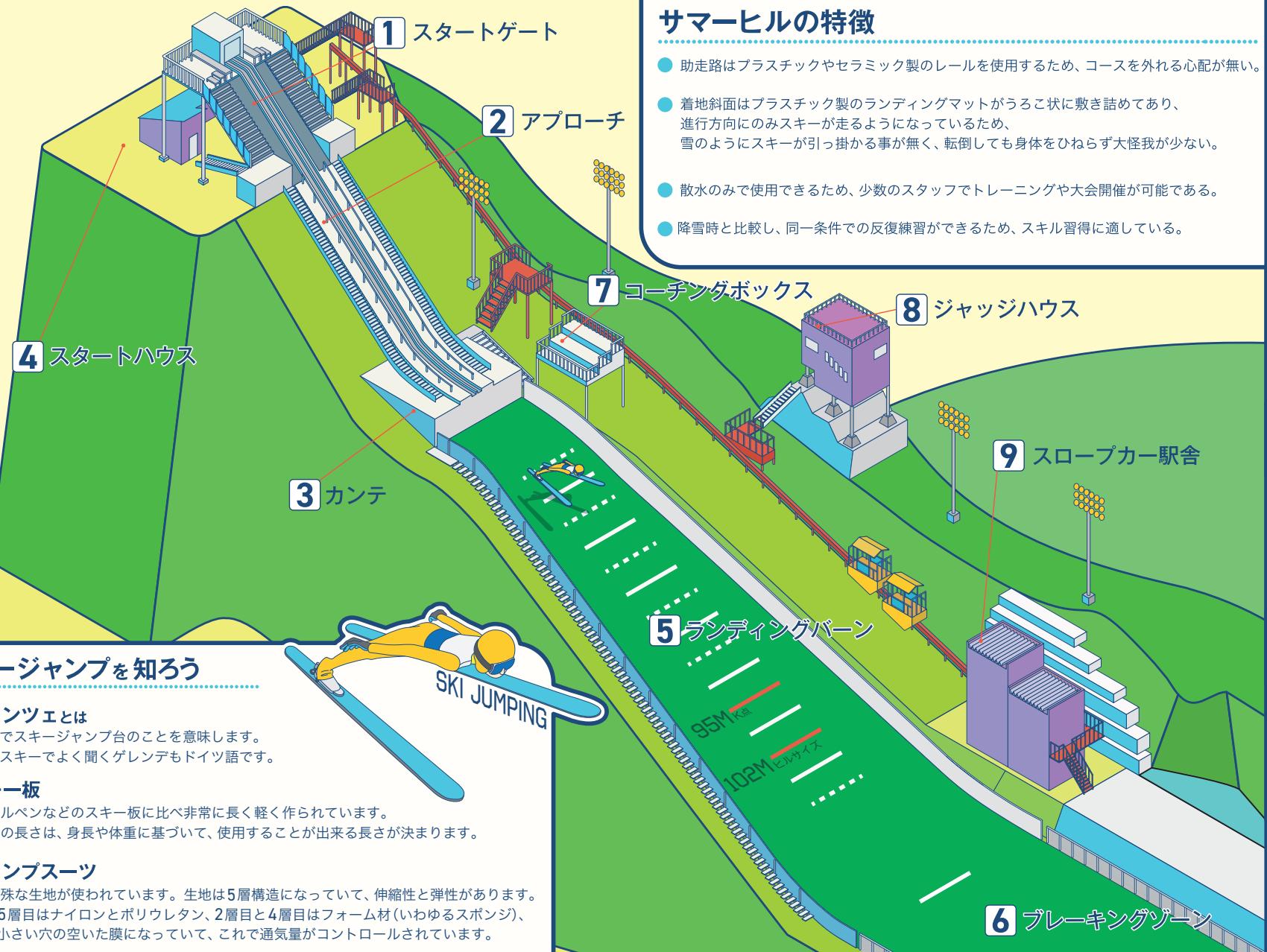
スタートの順番が近い選手の待機場所。ここからスタートゲートに進み、ジャンプを行います。

5 ランディングバーン

Landing Bahn

ジャンプの着地位置

選手が着地することをランディングといいます。着地はテレマーク姿勢をとれるかで飛行点が大きく変わり、得点に関わる重要なポイントです。最大斜度は36.5度です。



サマーヒルの特徴

- 助走路はプラスチックやセラミック製のレールを使用するため、コースを外れる心配が無い。
- 着地斜面はプラスチック製のランディングマットがうろこ状に敷き詰めてあり、進行方向にのみスキーが走るようになっているため、雪のようにスキーが引っ掛かる事が無く、転倒しても身体をひねらず大怪我が少ない。
- 散水のみで使用できるため、少数のスタッフでトレーニングや大会開催が可能である。
- 降雪時と比較し、同一条件での反復練習ができるため、スキル習得に適している。

6 ブレーキングゾーン

Braking Zone

減速、停止するための範囲

選手が着地し、その後減速、停止するためのところです。着地地点までは下り坂ですが、途中からは減速するために上り坂になっています。

7 コーチングボックス

Coaching Box

コーチが指示を出す場所

風の影響はジャンプに大きな影響を与える(向かい風だと飛距離が伸びる)ため、追い風は加点、向かい風では減点とし、最終的な得点計算で調整されます。

8 ジャッジハウス

Judge House

飛行審判を行う場所

飛行審判員は5人おり、それぞれ部屋に分かれて採点を行います。「飛行」とは飛び方の姿勢を指し、飛行点はジャンプの美しさ、正確さ、着地姿勢などを採点します。

9 スロープカー駅舎

Slope Car Station

選手を運ぶスロープカー

山麓駅・ジャッジハウス駅・コーチングボックス駅・山頂駅の4駅があり、令和5年に選手の輸送力向上を図るために、スロープカーを2両編成にし、駅舎も増築しています。

2025年3月作成

詳しくはこちらから

山形市役所
文化スポーツ部スポーツ課
TEL 023-641-1212

